

私たちは、人間愛と責任感に基づき、患者さまを中心とした

生命を大切にできる心 思いやりを大切にできる心 学ぶことを大切にできる心

をもって地域の安心づくりに努めます。

1. 人間愛と責任感に基づく、優しい医療に努めます。
2. 患者さまへの十分な説明と同意、並びに患者さまの選択の意志の尊重に努めます。
3. 患者さまのプライバシーを尊重し、また、個人情報の保護と診療情報の提供に十分な配慮をいたします。
4. 良質な医療サービスを提供して、地域の皆さまの安心づくりに貢献します。
5. 入院・通院から在宅まで「継続的な」医療とリハビリテーションの提供に努めます。
6. 常に患者さまの声に耳を傾けて、暖かみのある療養環境づくりに努めます。
7. 良質な医療の提供のため、たゆまざる努力と研鑽に努めます。

患者さまの権利

- 患者さまは、常に一人の人間として、その人格・価値観が尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
- 患者さまは、社会的地位・年齢・性別・信条・疾病の種類などにかかわらず、平等に適切な医療を受ける権利があります。
- 患者さまは、自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療方法の有無などについて十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
- 患者さまは、医療の内容を十分に理解し納得した上で、治療方法などを自らの意志で選択する権利があります。
- 患者さまは、医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。
- 患者さまは、病気やその療養方法および保健・予防等について教育を受ける権利があります。
- 良質・安全な医療を実践するためには、患者さまと医療提供者との間のパートナーとしての人間的信頼関係と双方向のコミュニケーションがきわめて重要になります。

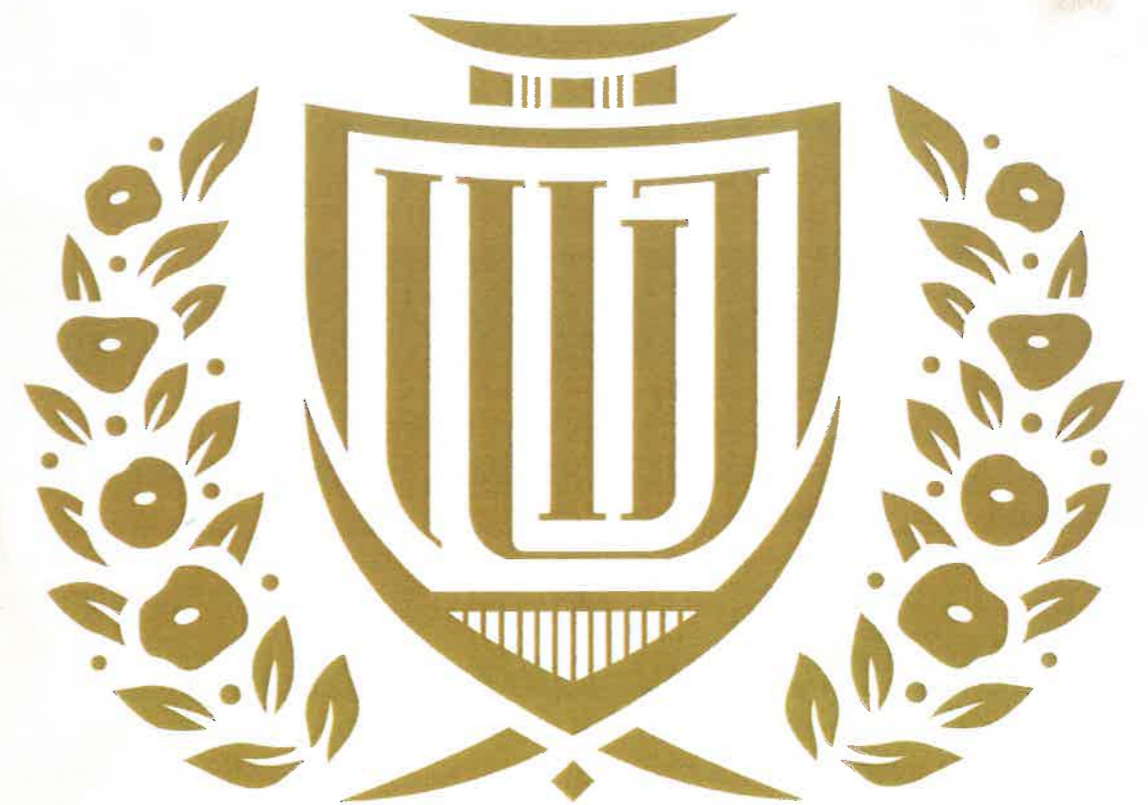


医療法人愛全会 愛全病院

〒005-0813 札幌市南区川沿13条2丁目1-38  
Tel.011-571-5670 Fax.011-572-8005  
<http://www.aizenkai.or.jp>



病院機能評価 認定第MB44-3号 審査体制区分:4 (Ver6.0)



*Aizenkai*  
GROUP

TOPIC NEWS

ロゴマークが  
新しくなりました。

新病棟オープンに伴い、医療法人愛全会のロゴマークが新しくなりました。愛全会の「愛」をまるでホテルのようなエンブレム風にシンボル化し、周りには北海道の花である「ハマナス」をあしらった、高級感の中にも柔らかさを表現しております。このロゴマークから、愛全会らしい「ホスピタリティの高い愛のある医療・介護」を多くの方に感じ取って頂けると幸いです。



# 新棟建替整備 第1期工事完成!



愛全病院新棟完成予想図

※画像はイメージです。

現在、進行しております新棟への建替整備第1期工事が完成し、3月より一部使用を開始いたしました。引き続き第2期工事に入りまして、平成29年末に完成の予定となっております。工事期間中は何かとご不便おかけいたしますが、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 各科機能、新病院へ。

新棟建替整備第1期工事が完成し、一部病棟・放射線科・薬剤科・栄養科が移転しました。  
引き続き、7月に歯科、9月に外来の移転を予定しております。  
歯科・外来ともに装いを一新し、お待ちしておりますのでお気軽にご利用ください。



理事長からのご挨拶

### 「愛される病院づくり」を目指して。

愛全病院は、高齢者医療のさきがけとして1969年に札幌市南区川沿に開設し、以来47年にわたり「生命を大切にす心、思いやりを大切にす心、学ぶことを大切にす心」という理念の下に地域の安心づくりに努めてまいりました。

急性期病院での治療を終えた患者さまなどを受け入れる回復期・慢性期医療を担う病院として、その役割を十分に果たすため、リハビリテーション機能を充実するとともに、医師をはじめ看護・介護・リハビリテーション職員などが連携したチーム医療を推進し、患者さまの在宅復帰に向けた取り組みに努めております。

この間、時代の要請に応じ、増築や改築などを行ってきたところですが、昨年7月からは、高齢者医療のパイオニアとして、地域の方々からの信頼を未来につないでいく「愛される病院づくり」を目指し、大規模な建替整備工事に着手致しました。

今後の社会・医療情勢の変化に対応できるよう「将来にわたってフレキシブルに使える病院」として、また、「省エネルギーと災害に強い病院」としての整備を進め、この度、第1期工事が竣工し、本年3月より新病棟の一部の使用を開始するに至ったところです。

新病棟は、優しいインテリアデザイン、自然光の入る明るい空間づくり、個室をはじめとするゆとりのある病室、医療設備・機器の充実などにより、高齢の患者さまに十分に配慮した療養環境が整備されたものと考えております。

現在、2017年末のグランドオープンを目指し、第2期工事に着手致しましたが、今後共、愛全病院は、地域の皆さまの安心・安全を支えるため、より良質な医療の提供に取り組んでまいりますので、温かいご支援の程よろしくお願い申し上げます。



医療法人 愛全会 理事長  
社会福祉法人 愛全会 名誉理事長  
赤塚 知以

### 第一期建替え工事による新病棟の完成に寄せて。

新しい病院の第一期工事が終わり、新しくなった病棟での診療も始まっています。個室が多くなったので、終末期の対応やベッドコントロールも改善されました。

この10数年間で、医療の在り方が大きく転換してきました。DPCに代表される急性期病院では、在院日数の短縮が本格化されてきました。その結果、まだ治療余地が多くある患者さんが、慢性期の病院へ多く紹介されてきています。また、慢性期に入院中や介護施設から紹介される患者さんは、嚥下障害、摂食障害など、高齢で認知症の終末期の患者さんが多くなってきました。慢性期の患者さんを診療するにも、多くのスキルが私たち医師にも求められてきています。ここ数年、急性期病院でそれぞれの診療科のスキルを持ち、また広い範囲の病態に対応できる40歳台前後の医師が、愛全病院に多く参加してきています。急性期病院が求めている多くの病態の患者さんや、人工呼吸管理など臓器サポートを必要とする患者さん、まだまだ多くの治療の余地を残している患者さんに対応していくことが、慢性期病院にも求められています。今後、ますます診療の質を上げていきたいと考えています。



診療部 顧問 松原 泉



医療法人愛全会 愛全病院

〒005-0813 札幌市南区川沿13条2丁目1-38

Tel.011-571-5670

Fax.011-572-8005 <http://www.aizenkai.or.jp>



# 施設紹介

新病棟の施設・設備を一部ですがご紹介いたします。



## 病棟スタッフステーション

中央に据えたダブルコリド型を採用により、効率の良い看護・介護、見守りやすい明快な病棟となっています。



## 病棟廊下

廊下はゆとりある広さを確保し、壁には高級感あふれる絵画やインテリアが飾られています。



## 病室

入院生活を快適にお過ごし頂けるよう、自然光の入る明るい空間と冷暖房・加湿空調が完備されています。



## 食堂・テイルーム

各病棟に完備されている食堂・テイルームでは、患者様や面会者など気軽にご利用いただくことができます。



## CT室

最新のX線CT機器(16列ヘリカル)の導入に伴い、より短時間で詳細な画像データの供給が可能となりました。



## ミスト浴そう

患者さまがストレッチャーに乗ったままでもご利用できるミスト浴そうが各病棟に完備されています。

# 新棟建替整備に伴い、各科よりご挨拶。

## 放射線科

第1期の建替えに伴い、3月より新棟での業務となりました。それに関連して、いくつか機器の更新を行いましたので、ここで紹介いたします。

X線CTを4列から16列ヘリカルに変更し、より短時間で詳細な画像データの供給が可能となりました。また、老朽化していた回診用X線撮影装置を軽量・静音設計のものに更新するとともに、一般撮影室を2室化にし、検査待ち時間の短縮を図りました。

今迄フィルムで提供していた画像は、モニターにて診断ができるPACSシステムに変更し、撮影終了後、即座に画像データが医師のもとへ提供されるようになりました。以上のような機器の更新およびシステムの構築などで進んだ「画像診断業務の効率化・迅速化」を機に、今後も患者さまの負担軽減と高質な画像情報の提供を目指してまいります。

放射線科 科長 石田 亨

## 薬剤科

薬剤科は処方箋による調剤業務のほかに、医師、看護師が安心して医薬品を使用できるよう院内全体の医薬品の品質や情報を管理しています。病棟薬剤業務では患者さまがより良い薬物療法を受けられる様に入院時に持参した薬の管理から始まり、入院中の服薬指導やカンファレンスへの参加、そして退院時指導までを行い、直接患者さまにかかわりながら処方設計に介入し、他部署と連携を図りチーム医療に参加しています。

患者さまに安全な医療を提供するためにはスタッフの働きやすい環境も大切と考え、アットホームな雰囲気の中で意見交換し、全員の意見を業務に反映させています。また、日頃の研究成果を全国の学会で発表をするなど、積極的な情報発信と質の向上に努めています。

薬剤科 薬局長 伊東 敏雅

## リハビリテーション部

新病棟が平成28年3月1日にプレオープンいたしました。2Fに回復期リハビリ病棟を配置し、病棟内に広々としたリハ訓練スペースを備えています。この訓練スペースを「生活リハラウンジ」と呼び、生活に密着した訓練が実施できる空間になっています。大きな特徴は、アイランドキッチンを備え付け、食事訓練をより積極的に実施できるような空間としているところです。回復期リハ病棟では、ADL訓練を重視するためリハ職員の早出・遅出勤務を数年前から取り入れています。なかでも食事に対するリハやリハ栄養に積極的に取り組んでいます。生活リハラウンジで生活リハを積極的にを行い、患者さまの円滑な在宅復帰に努めています。

リハビリテーション部 管理科長 吉川 文博

## 栄養科

平成27年の介護報酬改定に引き続き平成28年の診療報酬改定でも食べる機能への支援が評価されています。栄養科では、少しでも口から食べる事で口腔機能の維持、また患者さまに満足感を得ていただくことを目的として、日頃から他職種と連携し、患者さまの食事について観察・検討をおこなっています。平成27年7月からは調理師発信でより食べやすい食事提供を目的に、調理法や切り方について試作・協議を継続しています。他職種からのサポートとして言語聴覚士が、食べやすさ、飲み込みやすさの視点から検食し、リハビリ医からは厨房スタッフを対象にして「摂食・嚥下障害」のテーマで講義が開催されました。今後も患者さまの食べる機能を尊重し、生命の質を支援してまいります。

栄養科 係長 小山 美樹

## 看護部 -愛全病院認定看護師会「たんぼぼの会」の活動について-

当院には認知症看護認定看護師4名、緩和ケア認定看護師1名がいます。認定看護師とは日本看護協会が認定する特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有する看護師です。愛全会の理念「こころとからだのまごころケア」をもとに、たんぼぼのように力強く地に根を張り(地域に貢献する)、綿毛が一つひとつ種をまき、花を咲かせる(知識の普及・ケアの質の向上)という思いを込め「たんぼぼの会」をつくりました。

たんぼぼの会では、認知症や慢性疾患を抱える高齢者の意思を尊重し、もてる力を発揮しながら、その人らしい療養生活が続けられるよう看護を実践しています。また、認知症ケアに関する知識や技術を身につけ、ケアの質の向上を図ることを目的に、院内認定看護師教育研修(認知症看護分野)を行っており、今後は院内認定看護師6名が活躍していきます。

3階2病棟 看護主任(認知症看護認定看護師) 村田 亜希子